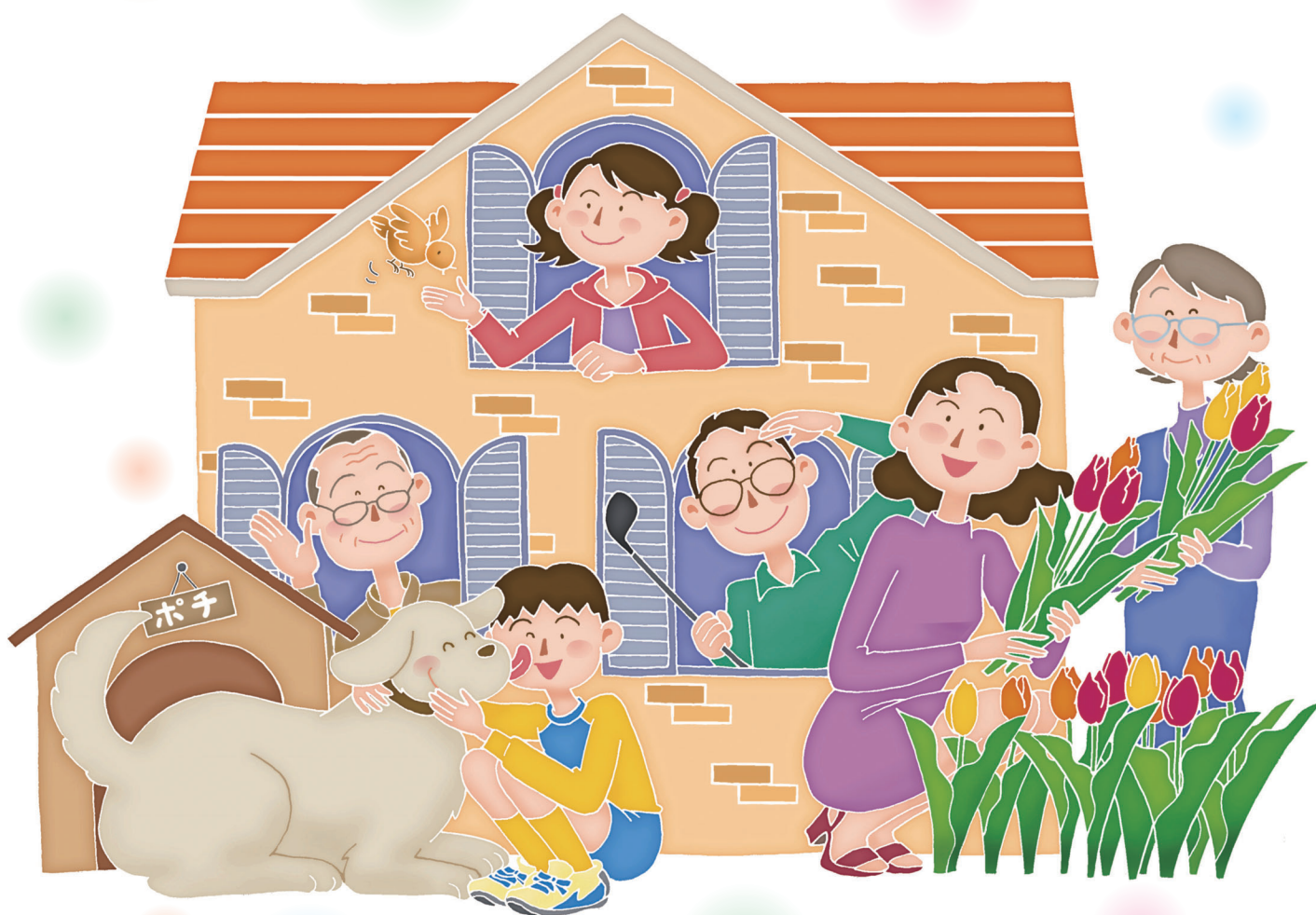




福井県PTA

◆発行者：福井県PTA連合会 会長 木村正俊 広報委員会
 ◆発行所：〒918-8135 福井市下六条町14-1 (福井県生活学習館2階) TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333
 ◆ホームページ：http://www.fukui-pta.jp (社)日本PTA全国協議会 http://www.nippon-pta.or.jp/
 ◆E-mail：mail@www.fukui-pta.jp



CONTENTS

◆会長あいさつ	2	◆あいさつ運動実施状況調査報告	6・7
◆全国PTA全国協議会年次表彰式	2	◆西川知事との懇談会(概要)	8
◆東海北陸ブロックPTA研究大会に参加して	3	◆「二十一世紀社会で活躍できる力」を子ども達に	9
◆一筆啓上 我が家の三原則	4	◆福井県PTA連合会広報紙コンクール	10
◆福井県選出国會議員への要望活動	4	◆県P掲示板	10
◆県Pゆめ基金	5	◆編集後記	10

東海北陸ブロックPTA研究大会に参加して

福井県PTA連合会

副会長 白越

不朝

今年度の東海北陸ブロックPTA研究大会は、十月二十八、二十九日の二日間、愛知県において開催されました。

今大会では、私たち芦原中学校が一日目の分科会で『家庭教育』をテーマに活動発表を行いました。また、その後の討論会にも発表校からのパネリストとして参加させていただきました。

近年の「家庭教育力」の低下は、分科会に参加された多くの皆さんも感じている様子で、家庭内の様変わりや、地域との関係の変化などを考えながら、PTA活動を展開している苦労話などをお聞きました。

そして、家庭内での教育力は、地域の人々との関わりの中から様々な「きっかけ」を得ることで、さらに強化されるものと感じさせられました。

そして一方で、私たち親と子ども達が安心して健全で落ち着ける「我が家」を創ることが子育ての基本でもあります。

PTA活動は、私自身のいたらぬ所を教えていただける貴重な場であると強く感じました。

我が家の子とも達との関わりを今一度考え直し、また子ども達がいてくれることに感謝しながら分科会の会場を後にしました。

東海北陸ブロックPTA研究会分科会一覧

分科会領域	研究実践発表	研究発表PTA
家庭教育	親子の夢を育PTA活動	福井県あわら市芦原中学校PTA
	家庭教育力の強化を支えるPTA活動	愛知県蒲郡市立西浦小学校父母と教師の会
	みんなで育む「地域の環」「人の輪」「心の和」	名古屋市立豊臣小学校PTA
	見て、聞いて、感じて	愛知県愛知郡東郷町立諸輪中学校PTA
学校支援	学校を支える育友会活動と地域のつながり	石川県穴水町立穴水中学校育友会
	家庭・学校・地域がともに協力し合い、心豊かな子供の育成を目指す	愛知県大府市立共和西小学校PTA
	元気いっぱい ふれあいいっぱい 笑顔いっぱい	岐阜県可児郡御嵩町立御嵩小学校PTA
	保護者・学校・地域の相互コミュニケーションの拡充	愛知県豊田市立猿投中学校PTA
地域連携	ふるさと学習「アママ場の再生を目標して」への協力	三重県志摩市立矢中学校PTA
	しょうぶの里から“つながり”を求めて	愛知県豊橋市立大清水小学校PTA
	地域とふれあい	富山県南砺市立福光中部小学校PTA
	ふるさと、再発見	愛知県一宮市立北方中学校PTA



「心のきずな61キャンペーン」は、東日本大震災で孤

児・遺児となった子ども達に対し、全国にある六十一のPTA協議会（都道府県、政令指定都市を含めた数）が心を一つにして、就学支援をしていくというものです。

支援の方法としては、「阪神淡路大震災遺児就学援助基金」と同様の公益信託を設立します。募金活動で集まったお金を信託銀行に委託し、これを原資として、月額一万円（予定額 中学校卒業まで）を援助金として支援するものです。

今回の震災で、孤児・遺児となった子ども達は約千六百名にもなり、予定額を援助すると九億を超える莫大なお金が必要になります。

親はいつも子どもに寄り添って一緒に成長し、子どもが大きくなって社会の一員となるまで教え、育て、見守るという大切な役割を持っています。しかし、その大切な後ろ盾を失ってしまった子ども達のことを思うと、また、震災の犠牲になり我が子と別れなければならなかった私たちの仲間のことを思うと、親として本心に心が痛みます。

そこで、全国にいるPTA会員約

一千万人の心を一つにして、目標金額を達成しようという事でキャンペーンを行うことになったのです。

福井県PTA連合会では、二月二十一日（火）～三月十一日（日）までをキャンペーン期間として設けました。二月二十六日（日）には街頭募金を各郡市十五カ所にて実施しました。また、各小中学校へは、募金の趣旨と募金袋の展開図を描いたチラシを配らせていただき協力をお願いしました。

千年に一度とか、未曾有のとか言われる大きな地震でも日がたつにつれ、その記憶は風化していきます。しかし、まだまだ、支援を必要としている子ども達がいることを忘れないでください。

最後に、今回の募金活動にご協力とご支援をいただきました全ての皆様に衷心より感謝申し上げます。ありがとうございます。うござい



ました。



おめでとうございます

日本PTA全国協議会年次表彰式が、十一月二十二日、ホテルニューオータニで盛大に開催され、PTAの振興・発展に寄与した団体と個人に対し文部科学大臣賞、日P会長賞が贈られました。

福井県PTA関係の受賞者は、次のとおりです。

☆文部科学大臣表彰

福井市文殊校PTA

鯖江市神明小学校そだての会

☆日本PTA会長表彰

福井市安居小中学校PTA

坂井市立三国中学校PTA

（個人）

末永 公秀

橋 英重機

森久 留美

宇都宮直樹



大会二日目は、オープニングアトラクション 子ども太鼓「こまいぬ座」による太鼓演奏で幕が開きました。愛知県知事（副知事代読）、愛知県県議会議員などの祝辞に続き、功労者表彰があり、尾木直樹氏（尾木ママ）の記念講演へと続いていきます。

尾木氏の記念講演は「尾木ママ流“子育てと教育は愛とロマン”と題したものでした。



大会資料

尾木氏は、テレビ番組で見る姿通りの方で、柔らかな口調で気取らずに、時折脱線しつつ「子育て」「教育」について、身振り手振りを交えながら楽しくお話しされました。

講演の冒頭で尾木氏が強調されたことは、『子育てで一番大切なことは「人間は死ぬ瞬間まで成長し、学習している」ものであり、子育てを「慌てることはない」ということでした。

また、子育て・教育については、「子どもの目線に立つ」ことの重要性を話されました。

『子育て・教育には、「ペナルティを課す」方法と「褒める」方法があり、ペナルティを課す方法でも一定の成果を得られる。しかし、この方法は（ペナルティが嫌だからやる）↓（言われたことしかやらない）という、子どもの心に届かない、子どもの良質な人格形成に資するものではない』とのことでした。

「褒める」ことについては、教育の現場でも、また、家庭でも重要であり、特に家庭での「母親の笑顔の力」と「笑顔で褒める」ことの重要性を強調されていました。

『母親の笑顔』が、子どもの安心感につながり、子どもの興味、好奇心が膨らむ。「笑顔で褒める」ことが、あるがままの子どもを愛し、受け止める存在として子どもに届き、豊かな心を持った子どもに育つ。』

文部科学省の十三歳を対象とした鬱・躁鬱調査では、有病率は十％強であり、治療が必要とされたそうです。

「笑顔で褒める」ことは、子どもの「心」を元気にすることでもあると強く語られ、記念講演は満場の拍手の中で終了しました。



県Pゆめ基金

「単P活動支援金」「小規模校支援金」の事業終了報告

今年度の福井県PTAゆめ基金の収入は565,468円でした（内訳：書き損じハガキ24,867枚、テレホンカード482枚）。福井県PTA連合会では、この資金を活用して単位PTAを応援しています。申請のあったPTAの、特色ある活動に対して「単P活動支援金」「小規模校支援金」を選考の上、贈呈しています。23年度は、併せて7校のPTAに贈り有効に活用していただきました。その中から、3PTAによる活動の様子をお知らせします。

地域との交流活動

敦賀市立東浦小学校PTA会長

平田 国幸

児童が地域での体験を通して、東浦地区の歴史、文化や自然のすばらしさに興味を持ち、自分たちが住んでいるふるさとを愛する心をもつてほしいと願い、次の活動を行った。

塩づくりと昔遊びの集い

十月二十二日（土）

杉津の方から「東浦地区に伝わる戦後の塩づくり」についての講話を聞き、「海水からの塩づくり」に挑戦した。全学年を縦割りで三班に分けて、できあがった塩でおむすびを作り、豚汁と共に味わった。午後からはお年寄りの方に昔遊びを教えてもらったり、レクリエーションを行ったりした。どの体験も子ども達にとっては、楽しい活動になり地域の方々と交流する良い機会ともなった。

収穫祭と見守りボランティア

感謝の集い

十一月二十四日（木）

午前中の収穫祭では、児童全員が学校菜園で育てたサツマイモと里芋を使ってお菓子を作った。午後からはPTA補導厚生委員が進行係となつて「見守りボランティア感謝の集い」を開催した。登下校でお世話になっている方々と児童がスイートポテトと里芋のココロ揚げと一緒に食べながらふれあった。また、お礼の手紙と使い捨てカイロをプレゼントして感謝の気持ちを伝えた。地区ごとに書いた手紙は心温まるもので、皆さんから喜んでもらった。

地引き網体験と親子浜そうじ

あわら市波松小学校PTA会長

竹澤 伊佐男

地引き網体験は六月十二日の日曜日に、地元の漁師さんの協力を得て実施した。網にかかった鯛や鰯を刺身や浜汁、鯛飯などにして食べた後、ビーチコーミング（海岸の漂着物についての学習会）やビーチフラッグ（海岸でのレクリエーション）を行った。

また、七月十日の日曜日には波松海岸のゴミ拾いをしてふるさとの環境について考えた。

この他にも、親子奉仕作業や、区長さんや駐在所のおまわりさんにも参加してもらってふれあい学級を実施している。活動の様子はPTA広報紙「まっつくり」に掲載し校区全戸に配布している。

PTA会員数の減少により、これらの活動は予算的には厳しい状況であるが、自分のふるさと（特に海岸に近い学校として、海との関わり）について考えた

り、誇りに思ったりするよい活動として今後も継続していきたいと考えている。支援金は活動費用の一部にあてていただ



文殊の火祭り

福井市文殊校PTA会長

前田 益伸

【PTA運営委員会による準備】

第一回 火祭り実施計画について説明
第二回 各部で担当内容の確認
第三回 全体委員会にて打ち合わせ

【文殊の火祭り】

PTA・地域・学校が合同で実施している「文殊の火祭り」は今年度二十周年を迎えた。セレモニー開始までに親子で五百個のおにぎりを握った。

六年児童は、二十年の歴史を映像記録やインターネットから振り返り、第一部で発表した。地域の人たちや文殊校の先輩たちの思いや願いをくみ取ることや愛校心や地域への思いを引き継いでいく気持ちやさらに高まったようである。また周囲の大人も、子ども達の発表から改めてこの祭りの歴史を感じていた。

六年生全員が山頂で叫ぶ「将来の夢」や学年発表は、毎年多くの人々が感動する。

低学年は保護者や防犯隊、交通安全協会の人たちと一緒に下山。

下山途中で薄明かりに浮かぶ校舎の「文」の文字は（厚生部会が校舎壁面に電球を設置）実に美しく、子ども達は感嘆の声を上げていた。

二十三年度、本校は文科大臣表彰を受けた。



一筆啓上 我が家の三原則

たくさんのご応募
ありがとうございました。

生涯学習委員長
加藤 直美

福井県PTA連合会では、平成十六年から「我が家の三原則」作りを推進してきました。

また、家庭での生活習慣のきまりと家族間のメッセージを募集した「一筆啓上・我が家の三原則」の取組みも四年目を迎え、今年度は四千七百五十一通と多数のご応募をいただき、本当にありがとうございました。

どの作品も心の通い合いが感じられ、すばらしいものばかりでした。

この事業を通して、家族のあり方だけではなく、人を思いやることとの大切さを再確認していただけたら幸いです。

保護者の皆様のご理解とご協力、ご応募いただいた皆様、深く感謝いたします。



多くの素晴らしい作品の中から、会長賞を受賞された作品を改めてご紹介いたします。

会長賞

あわら市金津小学校四年

にし しゅうこ
西 秀翔さん

坂井市立丸岡中学校三年

あおいけ ゆうき
青池 希さん

我が家の三原則

- ① 一日一回スキップ
- ② たくさん言おう「ありがとう」
- ③ 食事の時はテレビを消して

（秀翔へ）

うれしい時はハイタッチ、心に雨が降ったら「むぎゅ」。どんな時も秀翔の一番のサポーターだよ。

（お父さん・お母さんへ）

もう四年生だけど、お父さんとお母さんにくっつくのが安心するよ。まだまだあまえんぼうだけど、よろしくね。

我が家の三原則

- ① 生活リズムを整えよう！
- ② 好き嫌いなく楽しい食事をしよう！
- ③ 気持ちのよいあいさつをしよう！

（息子へ）

「ただいまー」のその声ホットとする瞬間、と同時に今日のあなたのご機嫌が：わかるのよねー。

（お母さんへ）

家に帰った時間が、僕にとってもっともホットする時。「おかえりー」の一言で今日の一日が無事終わる。



福井県選出国會議員への要望活動

福井県PTA連合会副会長

山本 久徳

十二月二十一日、本県選出国會議員の方々にお目にかかり、福井の子ども達の教育環境に関する要望活動を行いました。お会いできない方には、要望書をお渡ししました。

今年度は

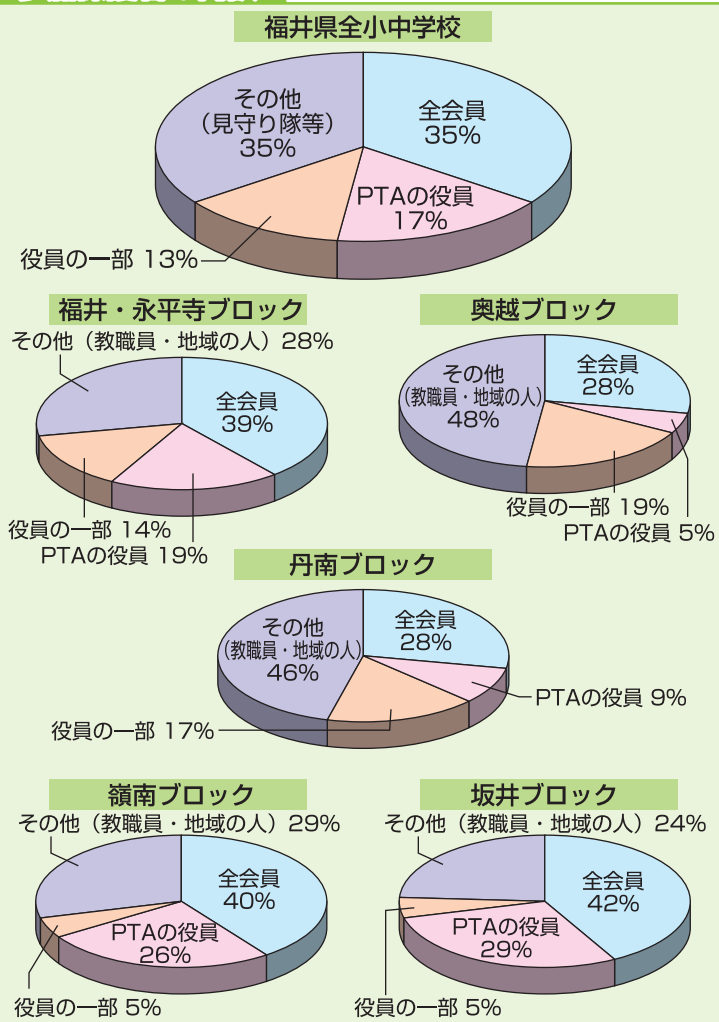
一、一人ひとりに応じたきめ細かな指導に対応した教職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの増員・増配置のための予算措置
二、全ての子ども達が、安全に安心して学習できる環境充実のための財政措置

三、生きる力を育むための「キャリア教育」充実のための支援
四、家族の絆や家庭内のふれあいを深める活動の更なる推進

等について要望し、福井の現状もご理解いただき、充実した話合いの時間を持つことができました。この活動を通して今後、子ども達が自分の夢や希望に向かって、健やかに成長するために、国會議員の皆様方にはご尽力いただけるものと考えています。



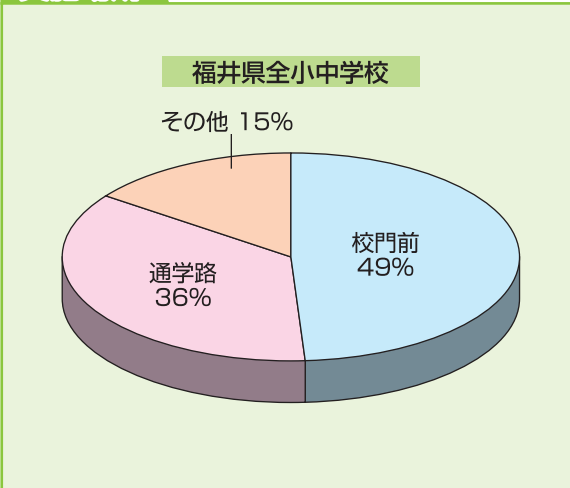
参加保護者の内訳



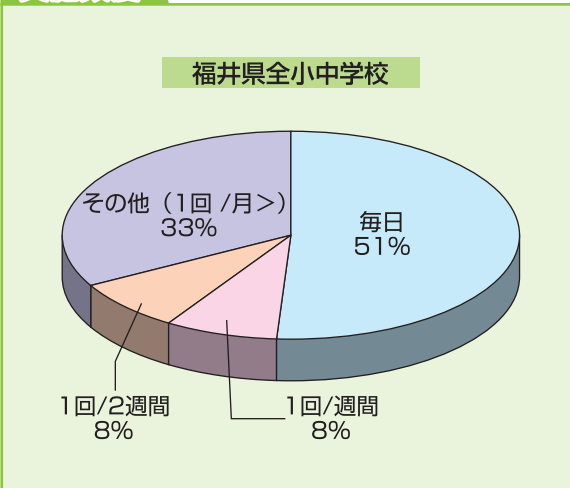
調査結果の概要

- ①どこの中小学校も何らかの形で「あいさつ運動」を実施している。
- ②PTAだけでなく、学校、児童・生徒自身、地域の方々を巻き込んで、あいさつ運動を実施している学校が多い。
- ③ほとんどの学校が、学校の校門前で「あいさつ運動」を実施している。
- ④児童や生徒自身が、毎朝「あいさつ運動」を実施している学校が多い。
- ⑤PTAの役員や委員会が主に「あいさつ運動」に参加している割合が多く、役員の負担となっているところも目立つ。
- ⑥各PTA会員へは、当初に「あいさつ運動」の実施日を連絡して、その計画に基づいて協力を依頼している。
- ⑦一部の学校では、「あいさつ運動」をまったく実施していないところもある。

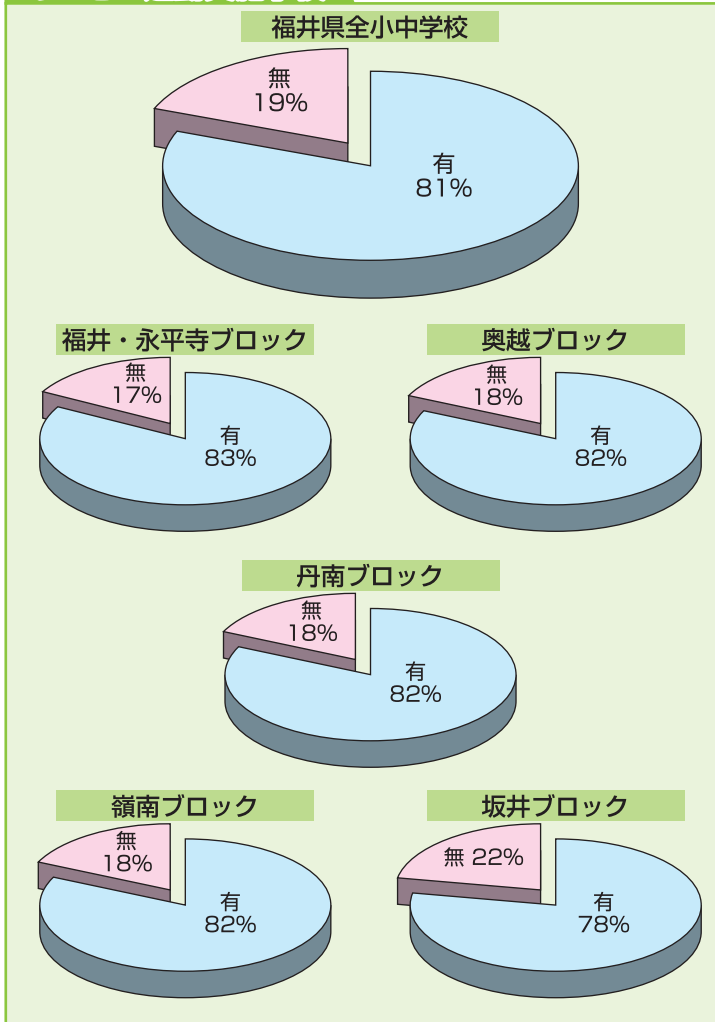
実施場所



実施頻度



あいさつ運動実施学校



調査の目的

昨年三月に発生した東日本大震災後、「あいさつは魔法の言葉」と言うCFが頻繁にTVで放送され、子ども達を含め誰もがあいさつの必要性を見直すことになりました。

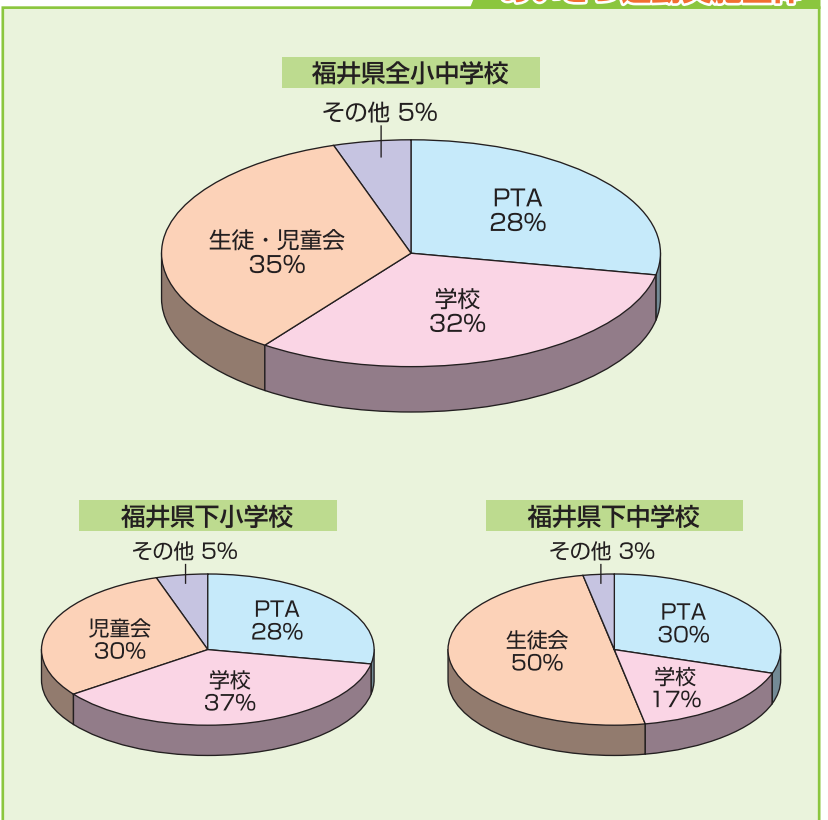
そこで、PTAとして現在福井県下各小中学校で、どのようにあいさつ運動をしているかを調査して、今後のPTA活動、児童会、生徒会、更には地域のあいさつ活動に寄与できればと、この調査を実施しました。

環境委員長 浅野 好一



あいさつ運動実施状況調査報告

あいさつ運動実施主体



あいさつ運動の効果

- ①子ども達の声が大きくなってきた。
- ②子ども達のその日の体調がわかる。
- ③交通事故からの回避が出来ている。
- ④保護者間のコミュニケーションが取れるようになった。
- ⑤子ども達に積極性が出てきた。
- ⑥子ども達が礼儀正しくなった。
- ⑦学校内の雰囲気が明るくなった。



具体的な活動例

- ・PTA会員は、2～3名交替して毎朝あいさつをしている。
- ・1学期は3年生の保護者、2学期は2年生の保護者、3月期は1年生の保護者と分けてあいさつに立っている。
- ・中学1年生が、小学校へ交替して訪問し、朝のあいさつに立っている学校がある。
- ・小学校と中学校が連携して、毎月あいさつ運動日を設けている。
- ・地域の民生委員や、工場、事業所の方に毎朝外であいさつをしてもらえるように、要請している。
- ・あいさつと合わせてハイタッチをするようにしている。
- ・見守り隊のあいさつが大きな力となっている。

調査を終えて

あいさつは、人間が生きていく上で、子ども達がおとなになっても人と人とのコミュニケーションに欠かせないものです。

社会人になっても、接遇の基本は「あいさつ」です。地味な活動ですが、将来の子ども達のために、PTAとして今後も「あいさつ運動」を継続していきます、子ども達に人としての基本を身に着けて、大きくなってもらいたいものです。

ご協力ありがとうございました。



児嶋先生

今回の講座は『二十一世紀社会で活躍できる力』を子ども達に」と題し、福井大学の前学長であり、京都大学・福井大学の名誉教授でいらっしゃる児嶋眞平先生が講義をされました。

児嶋先生は昭和十一年、京都市のお生まれですが、戦時中を旧清水町で過ごされ、藤島高校をご卒業されています。

一月二十一日にハートピア春江（坂井市春江町）で開講された二〇一一年度福井大学・関西電力出張講座を聴講してきましたのでご報告します。



『二十一世紀社会で活躍できる力』を子ども達に 福井大学・関西電力 出張講座を聴講して

広報委員長 角内 宏幸

講義では、まず二十一世紀のこれからの社会が抱える課題を、

- ①世界と日本の人口動向
- ②地球的観点からの環境や食糧、水の問題
- ③エネルギー資源の問題
- ④世界経済と日本経済

などの観点から、公的機関の統計資料も交え解説していただきました。

社会構造を支える最も大きなファクターである人口については、世界的には急増する中、日本では世界最速の減少傾向を見せていることに危機感をお示しになりました。

地球的な観点からの環境問題等については、環境汚染・自然破壊の拡大と人口増加が複雑に絡み、将来の食糧・水不足に対する懸念と、先端科学を活用した対策について、いくつかの事例を交えながら紹介いただきました。

エネルギー問題については、石油、天然ガス、石炭といった化石燃料の枯渇が数十年後に迫っており、この貴重な化石燃料を自動車燃料、火力発電などで消費することの「モッタナイ」現状をご紹介いただきました。

対策として、太陽光、風力などの再生可能エネルギーの活用を挙げら

れましたが、発電コストが割高であることなどから、原子力エネルギーについて、再度その有利性、安全性をより深く検討すべきとお話されました。

世界と日本の経済については、グローバル化が進む二十一世紀において、科学技術立国としての道を進むことが、世界の中で日本が生き抜く手段であるとして自身の経歴からも、強く訴えていらっしゃいました。

そして、多くの課題を抱える二十一世紀の社会で、生き活きと活躍するために必要な（子ども達に期待する）力として、

- ①グローバル時代に向け
- ②最先端の科学技術の研究開発に
- ③最先端の科学技術の研究開発に
- ④最先端の科学技術の研究開発に

取り組む力

○最新の科学技術を活用する力

○英語や中国語など、これからの世界の中心となるであろう諸外国の言語力

○逞しい体力と精神力、柔軟な知

力を挙げられ、

②超高齢化社会に向け

○高度な地域医療人としての力

○満ち溢れる奉仕精神

を挙げられました。

また、教育力日本一の福井県で育つ子ども達は幸せであり、福井の子ども達の未来を福井でどう拓いていくかが大人たちの大きな課題であり、重い責任であると訴えられました。



40名以上の保護者が集まりました

・現役引退後は地元で親孝行と社会貢献をする

〈中年期の働き盛り〉

- ・グローバル社会・高齢化社会で活躍する
- ・世のため人のために、職業に全力で取り組む
- ・幸せな家庭を築く
- ・健康で、こころ豊かに生きる

・地域社会に貢献し、若い人を育てる

結びのお話として「子ども達の理想的な将来」を整理され、希望あふれる子ども達に期待する成長過程を、ご自身の希望としてお話されました。

〈青少年期〉

- ・自分の適性に合った道をめざす
- ・高い志で日本社会をリードする
- ・能力をつける
- ・前向きで柔軟な適応力をつける
- ・逞しい体力と精神力を鍛える

など

〈中年期の働き盛り〉

- ・グローバル社会・高齢化社会で活躍する
- ・世のため人のために、職業に全力で取り組む
- ・幸せな家庭を築く
- ・健康で、こころ豊かに生きる

・地域社会に貢献し、若い人を育てる

・現役引退後は地元で親孝行と社会貢献をする

西川知事との懇談会（概要）

十二月十二日に県庁七階特別会議室で行った西川知事、広部教育長との懇談会についてご報告します。



木村会長の冒頭あいさつ

（1）子ども達が安心して学べる環境整備について

①学校や公的施設の耐震化の進捗状況と避難所としての環境整備について

②小中学校での安全教育、防災教育について

（西川知事）

耐震化については、県は概ね完了、市町施設、学校については今後も継続していく。

防災訓練については、学校単位で先生を中心にしっかりと訓練することが重要である。いざという時に当たり前の事ができるよう訓練を継続する。

放射線教育については今年度から始めている。原発を抱える福井県ら

しい教育を進めていく。

③学校給食の安全について（特に放射性物質に関連して）

（広部教育長）

基本的に、各市町で放射性物質による汚染の危惧がある食材は使わないことを徹底している。

各校の所在市町でとれる物、福井県産の物を給食に使用する地産地消を原則としている。

（西川知事）

厚生労働省で明確な基準を設定している。全国の知事会からも働きかけている。今すぐという不安材料はない。

④父親の子育て支援事業の成果について

（西川知事）

現在「第二次子ども・子育て応援計画」が進行中であり、企業を中心にバックアップしている。

男女共同参画の面からも父親の子育てを強調している。

⑤小規模校の良さを生かした教育を充実するための施策について

（西川知事）

小規模校の再編を進めているが、全ての小規模校を無くす訳にはいかない。小規模校間の合同授業等のプロジェクトを進めている。

（2）夢と希望を育てる教育について

①「元氣福井つ子新笑顔プラン」の今後について

（西川知事）

「元氣福井つ子新笑顔プラン」は全国的にも評価されており、学力・体力の向上に役立ってきた。現行プランは二十三年度で完了するが、PTAの皆さんの意見も聞きながら、今後検討していきたい。



西川福井県知事

②国際人を育成するための施策について

（西川知事）

外国語、英語の教育については、リスニングの成績は日本一だが、日常的な英語力は足りない。英語力向上推進会議」を設け、授業内容の改善、先生のトレーニング、教材開発を進める。

三月には米国ニュージャージー州等に高校生百名を派遣する。

③本県小・中・高の不登校児童・生徒の実態と対策について

（広部教育長）

福井県の小中学校は、学力、体力は全国トップだが、不登校の出現率が高い。

二十二年度から国立教育政策研究所の協力を得ながら対策を講じている。小学校低学年のケアが重要であり、不登校は減少している。

不登校対策には保護者の協力が大事であり、PTAの皆様にも協力をお願いしたい。

④若者の県内企業への就職状況と福井の産業を担う人材育成のための施策について

⑤福井の子ども達が将来の夢と希望を伸ばしていくためのキャリア教育について

（西川知事）

子どもや保護者に地元の企業を知ってもらうために企業紹介やインターシップに取り組んでいる。

福井の良さを理解できるような教育も必要であると考えている。

（3）その他（全般）

（牧野義務教育課長）

県で「私の夢カルテ」を作った。小四から中三まで使用し、将来の夢を記録していくもので、今年は小四と中一に配布した。子ども達が自分を振り返りながら、夢を見つけて頑張ろうという気持ちを持たせたい。

（文責 角内 宏幸）



懇談を終えて

第36回 福井県PTA連合会広報紙コンクール

応募の締め切りが迫っています!

応募締め切り:平成24年3月16日(金)必着

このコンクールは会員相互、家庭・学校・地域を結ぶ唯一の絆ともいえるPTA広報紙が、より多くの会員に読まれ愛されて充実し、会員相互のコミュニケーションが一層深まり、PTA活動が更に活発化することを目的としています。

◎最優秀賞…… 1点

◎特別賞

◎優秀賞… 10点

◎努力賞… 20点



※詳細は既送の文書をご確認ください

過去の実賞PTA(過去10年間)

回(発行年度)	最優秀賞	特別賞
26回(H13)	勝山市村岡小学校PTA	坂井郡金津中学校PTA
27回(H14)	坂井郡金津中学校PTA	
28回(H15)	清水町清水南小学校PTA	
29回(H16)	上志比村上志比小学校PTA	清水町清水南小学校PTA
30回(H17)	あわら市金津中学校PTA	上志比村上志比小学校PTA
31回(H18)	福井市日之出小学校PTA	
32回(H19)	勝山市成器西小学校PTA	
33回(H20)	坂井市平章小学校PTA	
34回(H21)	福井市安居小・中学校PTA	
35回(H22)	越前市武生東小学校PTA	福井市安居小・中学校PTA

福井県PTA連合会掲示板

●平成24年度行事予定●

(一部変更あり)

開催月日 曜日 行事等

3月31日 土 広報紙コンクール審査会(午前)

4月上旬 日 各都市P連役員等の報告会

22日 日 新田ブロック長引継ぎ会

5月12日 土 郡市PTA会長・事務局長会議

26日 土 地区別PTA研修会(午後)

13日 日 平成24年度 広報紙づくり講習会

26日 土 同講習会 敦賀会場(午前)

13日 土 第2回理事会 福井会場(午前)

26日 土 平成24年度 第62回年次総会

6月2日 土 第1回理事会(新メンバーによる) 常任理事会

23日 土 坂井ブロックPTA活動地区別研修会

30日 土 丹南ブロックPTA活動地区別研修会

7月1日 日 奥越ブロックPTA活動地区別研修会

30日 土 福井・永平寺ブロックPTA活動地区別研修会

7月7日 土 嶺南ブロックPTA活動地区別研修会

14日 土 子育て研修会: いまだて芸術館

8月4日 土 日本PTA全国研究大会 京都大会

24日 金 同 二日目全体会

25日 土 我が家の三原則・筆啓上募集

9月上旬 土 環境委員会アンケート実施

9月下旬 金 県P広報紙発行・配布

10月12日 土 東海北陸ブロックPTA研究大会 富山大会

12月8日 土 一日目 分科会

13日 土 二日目 全体会

平成25年 福井県PTA連合会 研究大会

1月 県PTAゆめ基金・小規模校支援募集期間

2月 県PTAゆめ基金協力月間(書き損じハガキ等の回収)

3月 PTA諸活動関係者の表彰推薦期間

3月 広報紙コンクール作品募集

編集後記

(広報委員長の独り言)



さて、あいさつ運動の記事にもありましたが、「魔法の言葉」について。ひよんなことから、ほんの数日ですが、「家事」の大変さを改めて痛感した広報委員長です。

朝ごはん、ぶつぶつと文句を言いながら食べる我が家の子ども達。

独り暮らしの経験もあり(それも結構長く)、得意とは言わないまでも、普通に食べられる程度の食事は作ることができると思っていました。

「ご飯硬い」「こげてる」「何か色変」

「気にせんと食べなさい」

食事だけでも相当なプレッシャーを受けました。

しかしここで「魔法の言葉」:

『おかわり』

子ども達よ、父は感激したぞ(泣)

子育ては保護者(私)の責任、しかし、保護者(私)の方も、子ども達から色々なものを受け取っているんですね。

子ども達に感謝。

お蔭様で、広報紙一〇四号の発行となりました。

作成にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

広報委員会委員長 角内 宏幸